

【栗東市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末及び高速大容量ネットワークを中心とするICT環境を活用することで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による、主体的で対話的で深い学びの実現を目指す。

特に、デジタルの優位性を生かすことで、児童生徒が学習の方法やツールなどを自分で選択し、多様な他者と協働しながら、学習者主体の学びを実現する。そして、すべての学習の基盤となる情報活用能力や、自己調整力の育成を目指す。

2. GIGA第1期の総括

当市では、GIGAスクール構想を契機に市立12小中学校の児童生徒に1人1台の学習用端末を導入し、および高速大容量の通信ネットワークを整備したほか、授業を担当する教師にも1人1台の指導者用端末を配備し、令和3年度から本格稼働させた。1人1台端末の活用率を高めながら、児童生徒一人ひとりの理解度にあわせて問題を出すAIデジタルドリルなど、多様なデジタルツールを活用し、個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けて推進してきた。また、臨時休校等の学びの保障の取組として、ウェブ会議システムやデジタルドリルなどを活用したオンライン学習を実施し、現在でも、不登校気味の児童生徒やインフルエンザ等による学級閉鎖や出席停止時でも学びを止めないための環境は整っている。

このように1人1台端末環境下で積み上げてきた実践や仕組みを今後に関し、さらなる学びの質の向上に繋げられるよう、同環境を引き続き維持することに努める。

一方、児童生徒の端末の活用率については、学校間あるいは教員間で差が生じていたが、令和6年9月に授業支援システムの導入をきっかけに、市全体で学習面でのICTの活用を見直す機会となった。市の夏季研修講座や各校で研修を計画し、授業改善につながるよう授業支援システムを活用する操作スキルを身に付けるよう計画したが、継続して教員の学べる場が必要である。また、市のICT利活用担当者を中心に授業支援システムを活用した授業研究会を開催した。各校の実践を担当者が自校に持ち帰り、さらにICTの活用頻度や操作スキルを高められる環境が必要である。

3. 1人1台端末の利活用方策

1及び2を踏まえ、次のとおり端末の利活用方策を講じる。

(1) 1人1台端末の積極的活用

1人1台端末や授業支援システム、デジタルドリル、デジタル教科書の更なる効果的な活用を推進するため、研修会を実施し、教員のICT活用スキルの向上を図る。

児童生徒が「自分で調べる場面」「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童生徒同士や教員とやりとりする場面」「自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」において、1人1台端末を積極的に活用するとともに、端末の持ち帰りによる家庭学習について積極的に推進していく。

(2) 学力向上「セレクト・パッケージ」による学校支援

学力向上「セレクト・パッケージ」にICT利活用研修会の実施を加え、学校のICTに関する困り感に寄り添い、授業支援システムの利活用についての具体的な支援を行う。

(3) ICT支援員の配置

ICT支援員については、ICT支援員の必要性を財政部局に丁寧に説明し、予算を確保して配置を進めていく。日常のICTを活用した学習支援を中心に、希望の学校より依頼に応じて派遣し、児童生徒・教員のICT利活用を積極的に支援していく。

(4) 学びの保障

不登校児童生徒や通級指導教室、適応指導教室に通う児童生徒、特別な支援を要する児童生徒に対しては、「リモート授業への参加」「課題等のオンライン送付」「外国人児童生徒に対する学習活動支援（翻訳機能等）」「障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒への支援」等、多様な場面での活用を検討し、積極的に支援していく。

また、希望する全ての児童生徒に対して「1人1台端末を活用した教育相談」での活用を検討し、積極的に支援していく。